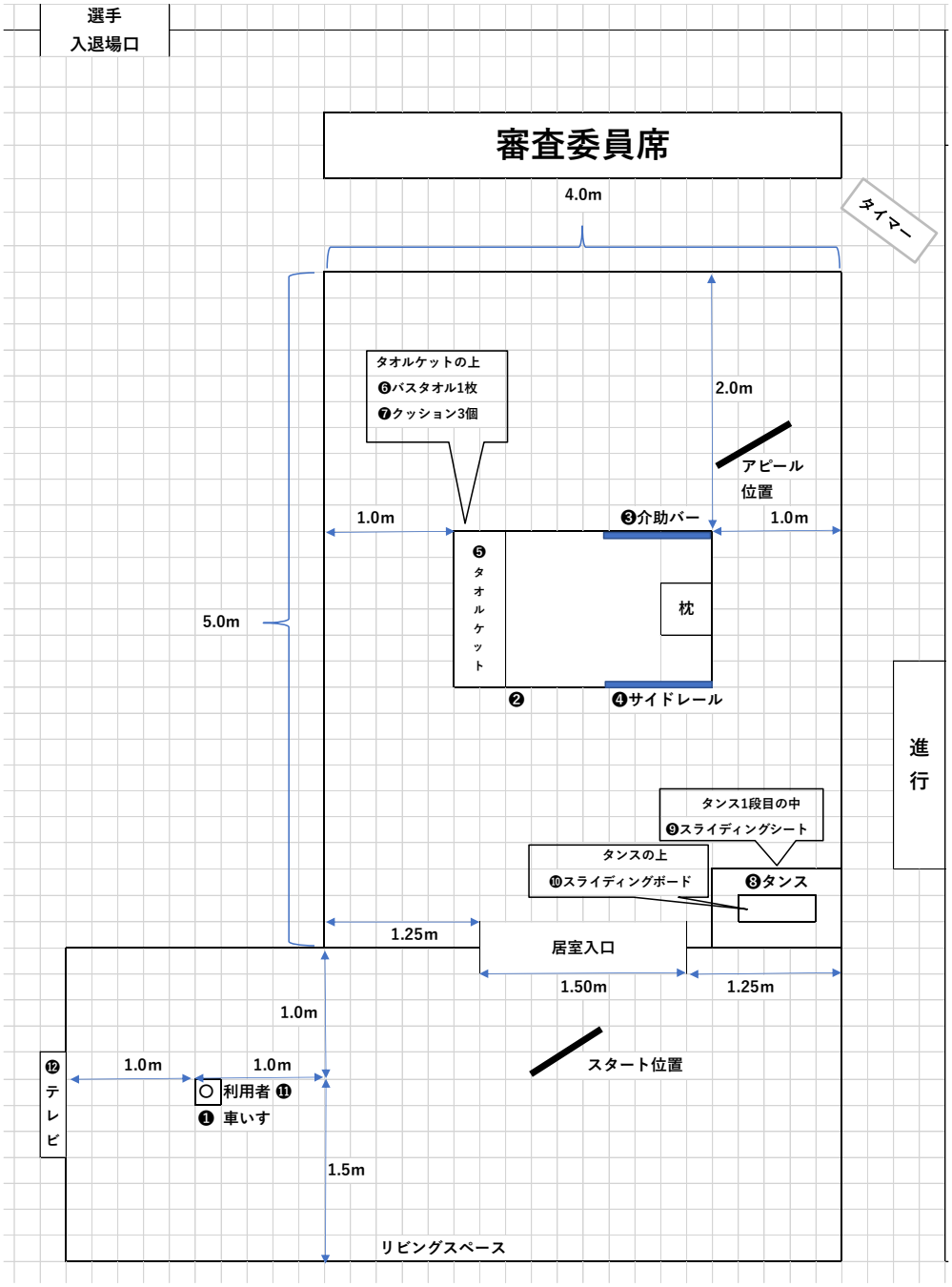
令和７年度　九州地区高校生介護技術コンテスト　課題

大隈さん（83 歳　男女不問）は、小規模多機能型居宅介護の宿泊サービスを利用されています。大隈さんはおやつの時間後、テレビを視聴しながら車いすに座っています。視聴していた番組が終わり、「居室で横になりたい」と介助の希望がありました。車いすで居室に移動介助し、ベッドで休んでもらうまでを介助してください。なお、大隈さんは、明日、帰宅することになっていますが、自宅での生活に不安を感じられています。

※大隈さんの意思表示は、「うなずき」または「指さし」のみとする。

●会場図



※居室の枠線は壁とみなします。

★物品　※事務局から詳細の写真提示あり。

番号	物品
①	車いす（手動車いす　自走用標準型）
②	電動ベッド（枕・枕カバー・下シーツ） ・高さは、車いす座面より２㎝高く調整済み（床からマットレスを含む） ・ギャッジアップ（頭側、足側、高さ）可能
③	介助バー
④	サイドレール
⑤	タオルケット
⑥	バスタオル１枚（ベッド上タオルケットの上に配置）
⑦	クッション大１・小２（ベッド上タオルケットの上に配置）
⑧	タンス（プラスチック製４段引き出し、天板部は木製）
⑨	スライディングシート（タンス１段目に収納）
⑩	スライディングボード（タンス上） ・各出場校で使用している物を使用可
⑪	利用者着用の介護シューズ（あゆみ）
⑫	テレビ（長机の上に設置）、リモコン

★利用者情報

利用者氏名	大隈さん	性　別	出場校判断
生年月日	昭和１６年９月４日	年　齢	８３歳
入所年月	令和６年４月	介護度	要介護３
病　　歴	初期のレビー小体型認知症（R５年）	服　薬	抗認知症薬 一日一回服用
	起立性低血圧	身　長	１５５㎝程度
	転倒による左大腿部骨折（R４年）	体　重	５０㎏程度
家族構成	同居：配偶者（７２歳）		
	別居:息子(４８歳　県外在住)		

障害高齢者の日常生活自立度：ランク（　B1　）	利き手	右
認知症高齢者の日常生活自立度：（　　Ⅱｂ　　）		

サービス利用までの流れ

２年前に自宅で転倒し左大腿骨部を骨折し、３か月ほど入院生活を送った。退院後、まもなくレビー小体型認知症を発症した。現在、自宅で生活をしているが、自力での歩行は難しくなり、車いすでの生活を送っている。現在、レビー小体型認知症の初期の症状が現れ、介護に困った家族からの相談もあり、本サービスを利用することになった。

生活歴
福岡県で出生。地元の鉱山学校を卒業後、佐賀県内の炭鉱に勤めていた。３５歳で結婚し、３６歳の時に長男が生まれた。地域でも町内会の活動には積極的に参加していたが、近年は家にいることが多く、テレビを見ていることが多い。身だしなみなどにはあまり気を遣わない。パーキンソン症状が現れるようになり、外出の機会がほとんどなくなっている。

【現在の状況】★ADL

寝返り 体位変換 起　居	一部介助が必要。
座　位	座位保持可能。
立　位	何かを把持しないと立ち上がれない。一部介助が必要。
移　乗	一部介助が必要。スライディングボードを利用されている。
移　動	全介助（車いす）。
排せつ	一部介助が必要。 尿意・便意あり。便秘傾向。間に合わず失禁することがある。
更　衣	一部介助が必要。
整　容	一部介助が必要。
食　事	においを感じにくい。
睡　眠	不眠傾向。

≪訴え≫

家族に対し、申し訳ないという気持ちを口にされることがある。担当の介護支援専門員に「配偶者に負担をかけんようにせんといかんですね。」という発言あり。また、配偶者からは「テレビばっかり見ているよ。」との発言あり。

≪楽しみ≫

スポーツ観戦（番組）を楽しみにされている。